

令和5年度 奈良県立国際中学校 学校評価総括表(年度末報告)	
[中学校用]	
年度	令和5年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会で起きていることに向けて、色々な人と一緒に取り組む生徒を育てます。 ○ 「なぜ?」を大切に、「自ら進んで学び、考え、表現する力」をもつ生徒を育てます。 ○ 文化や考えの違いを楽しみ、自分やまわりの人を大切にしながらつながる生徒を育てます。 ○ 健やかさと体で、失敗を恐れず、チャレンジする生徒を育てます。
年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ESDの推進 ○ 「主体的・対話的で深い学び」の推進 ○ 生徒の健やかな心身育成のための支援 ○ キャリアデザインかの育成 ○ 学校の円滑な運営 ○ 働き方改革を念頭にいた職場環境の整備 ※具体は別シートに記載

1 スクール・ポリシーの内容

入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	<p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で起きていることに興味・関心をもち、知識を使って豊かな思考や表現ができる生徒 ・思いやりの心をもち、他の人との対話を楽しむことができる生徒 ・何事にも粘り強く取り組み、目標をもって学び続けようとしている生徒
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	<p>本校では、Mission実現のため、以下の教育を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際バカロレアミドルイヤープログラムの試行実施を行います。 ・ICTの活用により個別最適な学びを目指します。 ・社会とつながる探究活動を推進します。 ・「世界とつながる学校。」をテーマにグローバル教育を推進します。
育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。(6つの力と10の学習者像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用し探究する(探究力) ・批判的・創造的に考える(創造力) ・コミュニケーションを大切に協力し合う(協働力) ・他人を思いやり、心を開く(寛容さ) ・信念と決断力をもって挑戦する(挑戦力) ・自分の考えや経験を振り返る(キャリアデザイン力) ・心と体のバランスを大切に

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

※A:達成している B:概ね達成している C:改善が必要である

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもも成長に合わせてはくむ	教育相談体制の充実	教育相談体制の推進	個別の生徒対応度85%以上	個別の生徒対応度89.5%	A	A	カウンセリングシステムの保護者・生徒への周知を強化していく。働き方改革を推進することで、教員が生徒に向き合う時間を確保する。全校で教育相談体制を構築する。
	学校保健活動の充実	バランスのとれた感染症対策と教育活動の実施	学校保健委員会の開催年2回	3月に1回開催予定	B	B	今年度はインフルエンザによる休業が4回あった。引き続き、感染防止対策に力を入れていく。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり	国際バカロレアMYPの試行実施	授業満足度75%以上	授業満足度85.1%	A	A	国際バカロレアMYP候補校としての取組を進める。個人探究期間の午後や授業交流期間の積極的な活用方策を検討する必要がある。
	ICTの効果的な活用	アプリ活用などの好事例の共有	ICT活用度70%以上	ICT活用度70.8%	B	A	Classiのより効果的な活用方法について引き続き研究を進める。令和8年度を目標に端末の自由化を検討する。
3. 働く意欲と働く力をはくむ	働き方改革を念頭にいた職場環境の整備	分掌間の連携・調整	総合健康リスク100以下	79	A	A	診断結果を分析し、検討チームを立ち上げて、業務改善を図っていく。外部の支援員の活用なども検討する。
	キャリアサポート体制の整備	キャリアデザインかの育成	キャリア支援度80%以上	進路支援度91.7%	A	A	中学校のキャリア支援のあり方について、引き続き研究を進める。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	インターンシップやフィールドワークの充実	職場体験や奉仕活動の推進	学校外の活動でATLスキルを伸ばすことができた回答する生徒 100%	100%(暫定値)	A	A	サービスアズアクションの担当者を置き、さらに効果的な運用ができるようにする。
	平和の文化の促進(グローバルマインドの涵養)	国際バカロレアMYPの試行実施	国際バカロレアプログラムの認定に向けた教員研修年間20回以上	現時点での研修回数24回、保護者会4回	B	A	国際バカロレアの認定に向けた取組を進める。感染症拡大防止のために中止になった保護者向けワークショップを開催する。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	外部機関との連携の促進	大学や地域など関係機関との連携強化	外部機関との連携回数 40回	連携行事回数93 回	A	A	連携が多岐にわたるため、連携の窓口を整理する必要がある。
	国際視点の人権教育、多文化理解の推進	豊かな心を育む人権教育推進体制の構築	満足度90%以上	満足度91.0%	A	A	ミッション実現のための取組を継続するとともに、広報活動にも力を入れる。授業体験などを通して、保護者の理解を深められるように取り組む。
特別支援教育の推進	国際バカロレアの基準に則った評価の好事例を共有し、指導と評価の一体化に努める。	より良い観別評価の方法	多面的評価満足度85%以上	多面的評価満足度86.5%	A	A	国際バカロレアの基準に則った評価の好事例を共有し、指導と評価の一体化に努める。
	個別の指導計画の活用を徹底	個別の指導計画の活用を徹底	個別の学習指導計画シート利用率100%	支援が必要な生徒のスクリーニングを徹底	B	—	引き続きスクリーニングを徹底し、必要な生徒に学年、学校全体で対応できる体制を構築する。学校全体のユニバーサルデザインを推進する。

3 評価結果の分析、今後の改善方

学校に対する満足度は生徒・保護者全平均で91.0%と目標を達成することができた。その他の項目においても7月、2月に実施した保護者、生徒向けアンケートの結果で目標値を達成することができた。開校1年目として、国際バカロレアMYP候補校としての取組も順調に進み、教職員はそれぞれの役割を十分に果たしたが、業務量が多く、内容が多岐にわたり、全体的に教員が疲弊傾向にある。次年度は、2学年になることから、国際バカロレア関係の業務や生徒支援体制、進路支援体制などを組織化し、学校全体で取り組んでいく必要がある。また、働き方改革を実現するため、次年度に向けて、検討チームを立ち上げて行事の精選や事務の簡素化などに取り組む。